

**CASBEE-新築(簡易版)2010年版**  
久御山社屋

欄に数値またはコメントを記入

■使用評価マニュアル CASBEE-新築(簡易版) 2010  
■評価ソフト: CASBEE-NCb\_2010(v.1.6)

スコアシート		実施設計段階		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
配慮項目	環境配慮設計の概要記入欄	評価点	重み係数	評価点	重み係数			
<b>Q 建築物の環境品質</b>								<b>3.5</b>
<b>Q1 室内環境</b>			<b>0.40</b>					<b>3.4</b>
<b>1 音環境</b>		<b>3.0</b>	0.15	-	-			<b>3.0</b>
<b>1.1 騒音</b>		<b>3.0</b>	0.40	-	-			
1	室内騒音レベル	3.0	1.00	1.0	-			
2	設備騒音対策	-	-	-	-			
<b>1.2 遮音</b>		<b>3.0</b>	0.40	-	-			
1	開口部遮音性能	3.0	0.60	1.0	-			
2	界壁遮音性能	3.0	0.40	1.0	-			
3	界床遮音性能(軽量衝撃源)	1.0	-	1.0	-			
4	界床遮音性能(重量衝撃源)	1.0	-	1.0	-			
<b>1.3 吸音</b>		<b>3.0</b>	0.20	1.0	-			
<b>2 温熱環境</b>		<b>3.4</b>	0.35	-	-			<b>3.4</b>
<b>2.1 室温制御</b>		<b>3.3</b>	0.50	-	-			
1	室温	3.0	0.38	1.0	-			
2	負荷変動・追従制御性	-	-	-	-			
3	外皮性能	3.0	0.25	1.0	-			
4	ゾーン別制御性	4.0	0.38	-	-			
				ゾーン別で冷房・暖房の洗濯が可能				
5	温度・湿度制御	-	-	-	-			
6	個別制御	-	-	-	-			
7	時間外空調に対する配慮	-	-	-	-			
8	監視システム	-	-	-	-			
<b>2.2 湿度制御</b>		<b>3.0</b>	0.20	1.0	-			
<b>2.3 空調方式</b>		<b>4.0</b>	0.30	1.0	-			
				事務室について床吹き出し方式を採用				
<b>3 光・視環境</b>		<b>3.2</b>	0.25	-	-			<b>3.2</b>
<b>3.1 昼光利用</b>		<b>2.8</b>	0.30	-	-			
1	昼光率	2.0	0.60	1.0	-			
2	方位別開口	-	-	1.0	-			
3	昼光利用設備	4.0	0.40	3.0	-			
				光井戸を採用				
<b>3.2 グレア対策</b>		<b>4.0</b>	0.30	-	-			
1	照明器具のグレア	-	-	-	-			
2	昼光制御	4.0	1.00	1.0	-			
				ブラインドに庇を組合せグレアを抑制				
3	映り込み対策	-	-	-	-			
<b>3.3 照度</b>		<b>3.0</b>	0.15	1.0	-			
<b>3.4 照明制御</b>		<b>3.0</b>	0.25	3.0	-			
<b>4 空気質環境</b>		<b>3.8</b>	0.25	-	-			<b>3.8</b>
<b>4.1 発生源対策</b>		<b>5.0</b>	0.50	-	-			
1	化学汚染物質	5.0	1.00	3.0	-			
				全面的にF☆☆☆☆の材料を使用				
2	アスベスト対策	-	-	-	-			
3	ダニ・カビ等	-	-	-	-			
4	レジオネラ対策	-	-	-	-			
<b>4.2 換気</b>		<b>2.3</b>	0.30	-	-			
1	換気量	3.0	0.33	3.0	-			
2	自然換気性能	3.0	0.33	3.0	-			
3	取り入れ外気への配慮	1.0	0.33	3.0	-			
4	給気計画	-	-	-	-			
<b>4.3 運用管理</b>		<b>3.0</b>	0.20	-	-			
1	CO <sub>2</sub> の監視	3.0	0.50	-	-			
2	喫煙の制御	3.0	0.50	-	-			
<b>Q2 サービス性能</b>		-	<b>0.30</b>	-	-			<b>3.6</b>
<b>1 機能性</b>		<b>3.7</b>	0.40	-	-			<b>3.7</b>
<b>1.1 機能性・使いやすさ</b>		<b>3.0</b>	0.40	-	-			
1	広さ・収納性	3.0	0.33	3.0	-			
2	高度情報通信設備対応	4.0	0.33	3.0	-			
				コンセント容量100VA/m <sup>2</sup> 以上				
3	バリアフリー計画	3.0	0.33	-	-			
<b>1.2 心理性・快適性</b>		<b>4.0</b>	0.30	-	-			
1	広さ感・景観	4.0	0.33	3.0	-			
				事務室の天井高は2.7m以上となっている				
2	リフレッシュスペース	5.0	0.33	-	-			
				リフレッシュスペース、喫煙コーナー、自動販売機の確保				
3	内装計画	3.0	0.33	-	-			
<b>1.3 維持管理</b>		<b>4.0</b>	0.30	-	-			
1	維持管理に配慮した設計	4.0	0.50	-	-			
				12項目中8項目を満足する取り組み				
2	維持管理用機能の確保	4.0	0.50	-	-			
				12項目中9項目を満足する取り組み				
3	衛生管理業務	-	-	-	-			
<b>2 耐用性・信頼性</b>		<b>3.6</b>	0.31	-	-			<b>3.6</b>
<b>2.1 耐震・免震</b>		<b>3.8</b>	0.48	-	-			
1	耐震性	4.0	0.80	-	-			
				基準法の1.25倍以上の耐震性能を確保				
2	免震・制振性能	3.0	0.20	-	-			
<b>2.2 部品・部材の耐用年数</b>		<b>3.1</b>	0.33	-	-			
1	躯体材料の耐用年数	3.0	0.23	-	-			
2	外壁仕上げ材の補修必要間隔	3.0	0.23	-	-			
3	主要内装仕上げ材の更新必要間隔	5.0	0.09	-	-			
				耐用年数20年以上				
4	空調換気ダクトの更新必要間隔	3.0	0.08	-	-			
5	空調・給排水配管の更新必要間隔	3.0	0.15	-	-			
6	主要設備機器の更新必要間隔	3.0	0.23	-	-			

<b>2.4 信頼性</b>			<b>4.2</b>	0.19	-	-	
1	空調・換気設備	4項目について取り組み	5.0	0.20	-	-	
2	給排水・衛生設備	3項目について取り組み	5.0	0.20	-	-	
3	電気設備	2項目について取り組み	4.0	0.20	-	-	
4	機械・配管支持方法		3.0	0.20	-	-	
5	通信・情報設備	2項目について取り組み	4.0	0.20	-	-	
<b>3 対応性・更新性</b>			<b>3.3</b>	0.29	-	-	<b>3.3</b>
<b>3.1 空間のゆとり</b>			<b>3.4</b>	0.31	-	-	
1	階高のゆとり		3.0	0.60	3.0	-	
2	空間の形状・自由さ	壁長さ比率 0.12	4.0	0.40	3.0	-	
<b>3.2 荷重のゆとり</b>			<b>3.0</b>	0.31	<b>3.0</b>	-	
<b>3.3 設備の更新性</b>			<b>3.6</b>	0.38	-	-	
1	空調配管の更新性		3.0	0.17	-	-	
2	給排水管の更新性	構造部材を傷めることなく更新・修繕できる	4.0	0.17	-	-	
3	電気配線の更新性		3.0	0.11	-	-	
4	通信配線の更新性		3.0	0.11	-	-	
5	設備機器の更新性	更新・修繕時に建物機能を確保できる	5.0	0.22	-	-	
6	バックアップスペース		3.0	0.22	-	-	
<b>Q3 室外環境(敷地内)</b>			-	<b>0.30</b>	-	-	<b>3.5</b>
<b>1 生物環境の保全と創出</b>			<b>3.0</b>	0.30	-	-	<b>3.0</b>
<b>2 まちなみ・景観への配慮</b>		地域性のある素材を利用し、まちなみ・視点場に配慮している	<b>4.0</b>	0.40	-	-	<b>4.0</b>
<b>3 地域性・アメニティへの配慮</b>			<b>3.5</b>	0.30	-	-	<b>3.5</b>
3.1	地域性への配慮、快適性の向上	中間領域の確保による、アメニティの配慮	<b>4.0</b>	0.50	-	-	
3.2	敷地内温熱環境の向上		<b>3.0</b>	0.50	-	-	
<b>LR 建築物の環境負荷低減性</b>			-	-	-	-	<b>3.6</b>
<b>LR1 エネルギー</b>			-	<b>0.40</b>	-	-	<b>4.2</b>
<b>1 建物の熱負荷抑制</b>		PAL値285	<b>4.0</b>	0.30	-	-	<b>4.0</b>
<b>2 自然エネルギー利用</b>			<b>4.0</b>	0.20	-	-	<b>4.0</b>
2.1	自然エネルギーの直接利用	採光利用・通風利用を計画	<b>4.0</b>	0.50	-	-	
2.2	自然エネルギーの変換利用	太陽光利用を計画	<b>4.0</b>	0.50	-	-	
<b>3 設備システムの高効率化</b>		高効率な設備機器を計画している	<b>5.0</b>	0.30	-	-	<b>5.0</b>
		集合住宅以外の評価(ERRIによる評価)	4.0				ERR=36.4%
		集合住宅の評価	3.0				
<b>4 効率的運用</b>			<b>3.5</b>	0.20	-	-	<b>3.5</b>
4.1	モニタリング		<b>3.0</b>	0.50	-	-	
4.2	運用管理体制	NEXCO基準により基本方針決定	<b>4.0</b>	0.50	-	-	
<b>LR2 資源・マテリアル</b>			-	<b>0.30</b>	-	-	<b>3.5</b>
<b>1 水資源保護</b>			<b>3.8</b>	0.15	-	-	<b>3.8</b>
<b>1.1 節水</b>		節水型の器具を採用	<b>4.0</b>	0.40	-	-	
<b>1.2 雨水利用・雑排水等の利用</b>			<b>3.6</b>	0.60	-	-	
1	雨水利用システム導入の有無	雨水利用を計画	4.0	0.67	-	-	
2	雑排水等利用システム導入の有無		3.0	0.33	-	-	
<b>2 非再生性資源の使用量削減</b>			<b>3.6</b>	0.63	-	-	<b>3.6</b>
2.1	材料使用量の削減		3.0	0.07	-	-	
2.2	既存建築躯体等の継続使用		3.0	0.24	-	-	
2.3	躯体材料におけるリサイクル材の使用	-	3.0	0.20	-	-	
2.4	非構造材料におけるリサイクル材の使用	タイルカーペット・再生木デッキ・間伐材など執務スペース、コミュ	5.0	0.20	-	-	
2.5	持続可能な森林から産出された木材		3.0	0.05	-	-	
2.6	部材の再利用可能性向上への取り組み	躯体と仕上げ分別の容易性	4.0	0.24	-	-	
<b>3 汚染物質含有材料の使用回避</b>			<b>3.0</b>	0.22	-	-	<b>3.0</b>
<b>3.1 有害物質を含まない材料の使用</b>			<b>3.0</b>	0.32	-	-	
<b>3.2 フロン・ハロンの回避</b>			<b>3.0</b>	0.68	-	-	
1	消火剤		-	-	-	-	
2	発泡剤(断熱材等)		3.0	0.50	-	-	
3	冷媒		3.0	0.50	-	-	
<b>LR3 敷地外環境</b>			-	<b>0.30</b>	-	-	<b>3.2</b>
<b>1 地球温暖化への配慮</b>		ライフサイクルCO2 排出率88%	<b>3.4</b>	0.33	-	-	<b>3.4</b>
<b>2 地域環境への配慮</b>			<b>3.0</b>	0.33	-	-	<b>3.0</b>
<b>2.1 大気汚染防止</b>			<b>3.0</b>	0.25	-	-	
<b>2.2 温熱環境悪化の改善</b>			<b>3.0</b>	0.50	-	-	
<b>2.3 地域インフラへの負荷抑制</b>			<b>3.2</b>	0.25	-	-	
1	雨水排水負荷低減		3.0	0.25	-	-	
2	汚水処理負荷抑制		3.0	0.25	-	-	
3	交通負荷抑制	十分な駐車場の確保・出入口分離による渋滞の緩和	5.0	0.25	-	-	
4	廃棄物処理負荷抑制		2.0	0.25	-	-	
<b>3 周辺環境への配慮</b>			<b>3.1</b>	0.33	-	-	<b>3.1</b>
<b>3.1 騒音・振動・悪臭の防止</b>			<b>3.0</b>	0.40	-	-	
1	騒音		3.0	0.33	-	-	
2	振動		3.0	0.33	-	-	
3	悪臭		3.0	0.33	-	-	
<b>3.2 風害・砂塵、日照阻害の抑制</b>			<b>3.0</b>	0.40	-	-	
1	風害の抑制		3.0	0.70	-	-	
2	砂塵の抑制		3.0	-	-	-	
3	日照阻害の抑制		3.0	0.30	-	-	
<b>3.3 光害の抑制</b>			<b>3.7</b>	0.20	-	-	
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	公害対策チェックリストの一部を満足し、広告照明の設置なし	4.0	0.70	-	-	
2	屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策		3.0	0.30	-	-	